

農地にも春が来た！

今年も田植えの季節がやってきました。米作りを行う水田も、昨年より一段と多くなり、12地区合わせて約21ヘクタールとなりました。牛飼いを再開する人も、6件まで増えました。野菜づくりでも、出荷に取り組む人、自家用の「生きがい農業」に励む人が、共に増えています。花卉栽培の新たな取り組みも続いています。緑肥となる景観作物の花畑も、村内のあちこちに見られました。まだまだ部分的ではありますが、飯館の農地もまた、春の息吹にあふれています。

震災直後から栽培実証に協力してきた高野靖夫さん・笑子さん夫婦（前田・八和木）。昨年に続き八和木地区で米作りを行います。

お父さんは
じっとして
いられないん
ですよ…(?)

「つつひとつ取り戻そう 農地の春景色」
5月の初めから、村内のあちこちで田植えが始まりました。深谷地区や前田地区などでは震災後初の田植えです。
農地や水路、農機具の準備、あるいは手順の確認など、長い間離れていた米作りを再開するには、思わぬ時間がかかったようです。それでもいよいよ田植えが始まると、どのほ場にも、作業に励む人の笑顔がありました。「ようやく再開できた」という安堵感、は、ひとしおだったと思われます。
八和木地区で田植えをしていた高野靖夫さん・笑子さん夫婦は、平成24年から、国や村の栽培実証に協力を続けてきました。その蓄積が今、田植え再開の着実な増加につながっています。高野さん夫婦は、昨年よりも栽培面積を増やして、今年の米作りをスタートしました。

米作りをしながら、新たに小菊の栽培にも挑戦しています。

小菊栽培も初めてだからと言い訳せずに順調にやりたいの。ドキドキですよ～。

齋藤昌良さん・眞喜子さん夫婦（深谷）は深谷地区で米作りを再開。この地区での再開はこれが初めてです



3枚の水田に鉄コーティングした「里山のつづ」を直播き。田植え機を運転するのは高橋松一さん（二枚橋・須萱）です。協力しながらの農作業は、笑いが絶えません



青空の下で児童の楽しそうな声が響きました。手伝う大人も「楽しいねえ」と思わず笑顔に。秋には収穫祭も行う予定です

草野・飯樋・白石小学校
全校児童が二枚橋で田植え

5月24日、佐藤博さん（二枚橋・須萱）の水田で、草野・飯樋・白石小学校の全校児童が、地域の人たちと一緒に田植えを行いました。小学校が川俣町の仮設校舎にあった昨年までは、福島市荒井の水田で行っていました。今年はいよいよ村内での田植えです。子ども達は、苗の束を分け合いながら、一株ひと株丁寧に手植えをしていきました。松林勇人さん（6年生）は「土がやわらかくて気持ちよかったです。今年は転ばずにできました」と満足そうに笑顔を見せました。